



みどのぐんなかおつか みず  
 25 上州緑埜郡中大塚屋敷繩打水  
 帳 松平新 [ ] \*写

天正 19 年 (1591 年) 2 月 6 日

徳川家康の関東入国後まもなくの時期に作成されたと思われる水帳（みずちよう 検地帳）の写です。天正 19 年（1591 年）の中大塚村（現藤岡市中大塚）は藤岡城主しんろくろう やすまさ松平新六郎（康真）の領分であったため、康真の主導によって検地が実施されたと考えられます。表題にもある通り屋敷地の検地帳ですが、上・中の等級が記され、面積は坪で示されています。領主にとって田畑屋敷地の検地は、支配領域の生産量を把握し、効率よく年貢（税）を徴収するための最優先課題でした。

小林小五郎家文書 P8117 No.7

【25】 上州緑埜郡中大塚屋敷繩打水帳 松平新「」

(P8117 小林小五郎家文書 No.7)

〔釈文〕

〔表紙〕

天正拾九年卯年  
 上叟州緑郡中大塚屋敷繩打水帳  
 二月六日 松平新「」

〔前略〕

中九拾八坪	川口抱
中三百八拾坪	孫四郎□
中三百四拾坪	彦五郎居
中三百八拾八坪	孫四郎抱
上式百貳拾八坪	孫四郎抱
上百貳拾六坪	同抱
上式百貳拾五坪	平右衛門□
上三百貳拾三坪	道玄□

〔後略〕